

## 滑川宿街づくりについて運動の定着をめざして

増補版 2016.11.19 小森忠 富樫豊

### 1. はじめに

街づくりを長く持続していく上では、運動を如何に定着させるかが問われる。これには、街づくりにおいて推進側と住民側との共通理解をどう取り付けていくか、またリードする専門家の役割と若者の強力な推進をどう図っていくかが検討課題である。

著者らは、滑川宿まちなみの保存と活用に2010年より(保存会を組織して)たずさわり、今年からは標記題目にあるように上述の観点で運動に幅を持たせながら展開している。ここでは、そうした運動の詳細を記すことで今後の街づくりに資することにしたい。

### 2. 今の状況を踏まえて

保存は活用あってのものとの考えで、滑川宿の街の活力を向上させるために、核となる町家にてお祭り・演奏会・美術展・物品販売市などを開催してきた。

最近では、地元はもちろんのこと周辺地域の若者達が当該宿に思いを入れ、活動の担い手となって、世代交代を含めて街が少しずつ様変わりしてきている。

今回は、中堅人による地道なハード的支援も含め、若者の街への結集様相や街の活性への活動を紹介し、今後についての展開を検討したい。

### 3. 街の風景づくり

専門家がかかわった風景づくりについて、富山市大沢野にあった古い名家が取り壊しの際、健全な門だけでも残そうとして、滑川宿中核町家の横に今年移設した。当初は宿場通りにいきなり門ができたことになり、戸惑いはなかった訳ではないが、もともと「ぼんぼこさ(旧宮崎酒造)」は(北国街道滑川宿の)宿場本陣であったので、邸宅用の門とはいえ今では街道筋の風情を引締めるかのように凛として輝き息づいている。



「ぼんぼこさ(旧宮崎酒造)」とその正面に構える門

#### 4. 国登録有形文化財を目指して町家の図面づくり

古い建造物では、長年の風雨雪に耐えていても、築後 100 年経過もすれば修理修復が必要となり、保存については現況図面を作り、次いで有形文化財に登録申請（国登録有形文化財）することが一般的である。

滑川宿の場合、真っ先に修理に入った「ぼんぼこさ(旧宮崎酒造)」、次に「廣野邸」が修理された。修復には、山形大学の永井教授および学生の支援のもと、伝統建築をも手掛ける中野工房の中野氏が図面作成を経て修復工事を担当し、各種建物を蘇生させている。

その後、「じんでんや(城戸家住宅)」、「小沢家」、「菅田邸」、「有隣庵」が対象となり、修復作業を経て蘇生した。また、今年度から次年度にかけて、国登録有形文化財申請を滑川館、養照寺、櫛原神社等について山形大とともに中堅専門家による図面づくりが進められることになっている。



参考のため、登録文化財の現状を記す。詳細は次報にまわしたい。

##### A.登録住み

- ・旧宮崎酒造店舗兼主屋（ぼんぼこさ）：(10 数年前に修理着手、4-5 年かけ修理) 弘化以降、養照寺と交代で本陣を務める。  
慶応二年(1866)の大火直後に再建。建物 514.7m<sup>2</sup>、木造一部二階建。主や背後の明治期に建立土蔵が 3 棟あり
- ・城戸家住宅主屋（じんでんや）：  
明治初期から中期(明治 26 年)に再建。建物 191m<sup>2</sup>、木造 2 階建
- ・菅田家住宅主屋：明治初期、切妻木造二階建
- ・小沢家住宅店蔵：明治後期、建物 63m<sup>2</sup>、土蔵二階建
- ・廣野家住宅主屋(四川亭)：大正三年、建物 77m<sup>2</sup>、木造二階建、
- ・廣野医院：昭和 7 年、木造二階建

##### B.登録申請

- ・養照寺本堂、旧本陣
- ・滑川館本館
- ・神社本殿、拝殿

## 5. セミナーハウス「有隣庵」

滑川宿では町家「有隣庵」は知的広場・コミュニケーション場として、滑川宿にかかわる大学の宿場研究室や地元の企業の研修所となっている。大学では、山形大・東京家政学院大の学生がセミナーハウスとして合宿利用し、地元の金山産業や中野建築工房の社会人向け研修会を開催している。この他、街づくりやご婦人のグループにも懇談や勉強の場として利活用している。

今では、有隣庵が知的情報の練り上げや発信の場所となって宿場町に若さとパッションをもってインテリジェンスの風を吹き込んでいる。



主張語りの場

イベント準備

有隣庵外観(看板が風情あり)

## 6. 若者の街モニター

滑川市は、全国から応募の学生が滑川を知るための種々の体験(観光モニター)を通して結果を学生自身から SNS で発信するという企画「モニターツアー20」を夏休み期に実施した。実施プログラムについては市が先行し、これを街づくり専門家が協力し、運営には地元 TV 会社があたった。

対象学生は、街づくりを専門とする大学研究室からの自由応募の形をとり、3 大学(東京家政学院大、横浜国大、山形大)から女子学生各 4-5 人が参加した。

体験期間は、8 月下旬から 9 月下旬までの 1 か月間を三回に分け、三大学がそれぞれ 4-5 日間という設定であった。

体験の内容については、女子学生らしい視点で、食(郷土料理、名物料理、今風料理)の堪能、クルージング、農業体験、食品工場製造体験、市内散策などとなっている。とりわけ街づくりに関しては、映画ロケ地(アニメおかみこどもの雨と雪の小学校)見学や滑川宿での種々町家にて郷土食づくりなどの体験であった。

発信については、学生たちは体験をもとに有隣庵にてじっくりと構想を練り上げ、そして SNBS ツィッターで滑川女子旅行ツアーと題して全国に配信していた。

以下に日程やツアー内容を述べる。

第一回は、8 月 29 日(月)から 5 日間、東京家政学院大学学生 4 名が参加した。モニター対象は、映画のロケ地(アニメおかみこどもの雨と雪に出てくる小学校；田中小学校)や滑川沖クルージングである。



第二回は9月13日(火)からの4日間、横浜国立大女学生4人参加。対象はクルージング、農業体験、市内散策など。

第三回は9月26日(月)からの4日間、山形大女学生5人参加。対象は市内散策など。

## 7. お祭り行事——ベトナムランタン祭り

若者を中心にして地域全体で参加するベトナムランタン祭りが毎年8月の土日に開催されている。これは、滑川がベトナムの世界遺産の港町ホイアンに雰囲気滑川と似ていることから、国際交流として2010年から始まった祭りであり今日に至っている。参加者は年々増え、今年は8000人であり、祭りは滑川宿の新しい人気行事となっている。

実施に際しては、地元若者が中心になり、地元のみならず周辺若者ネットワークの利用



もあって実行委員会が作られ、地元の保存会や婦人の方々などが加盟し事業するという形になっている。

企画運営も若者と地域住民団体との共同とし、若者らしいエネルギッシュな企画を全面に押し出していた。祭りでは、展示あり、路上ライブの夕涼みコンサートあり、米麴のフォーあり、ぜんざいのチューあり、ベトナム雑貨あり、アオザイ試着・コンテスト等あり、また三輪自転車タクシーが街中に色を添えていた。

参加者は老若男女、世代を超え地域を越え、楽しんでおられた。

## 8. 若者の結集

滑川には文化財が豊富な割には、市民の目が地元に向くよりも(県庁所在地の)富山市に向きがちである。富山市と隣接しているためもあろうか、市内の若者もまた外(市域外)に目が向き、意識の上で若者流出が続いている。

これを憂いた我らは、滑川在住で頑張っている若者を一堂に介してまずは顔見せから始めようと、若い方をけしかけ、滑活交流会、ラインバック、あかりナイト、和美活、アトリー、シャツナイト、笑農和(IT農業)、上市味蔵、観光協会、町内会若手幹部等、10数人が15年3月、滑川宿に集まり懇親を深めた。若者代表の挨拶では開口一番は、「滑川にいてこれまでお会いしたこともなく見たこともない活動家がここに結集しているなんて奇跡です」と。そのかいあってと思うが、少しずつ若者の地元でのネットワークが根付き始め、これが市域津々浦々の若者(N+D=！、他)や他地域の若者(朝活、フリープロモーター、他)も加わり、大きな力を発揮するようになってきた。

ベトナムランタン祭りは、そうしたネットワークに支えられ、地元の老若男女の結集により大いに盛り上がるのが可能となった次第である。もともと、結集した若者の心意気が参加者を呼び込んだものといえる。

## 9. おわりに

これまでの街づくり活動には専門家や街の衆が主体となって運営してきたが、昨年頃から少しずつ様子が変わり、若者の結集およびこれに呼応して街衆も頑張るといった相乗効果が現れはじめ、滑川宿の街が大いに息づいている。

とりわけ若者については、草の根的な地元およびその周辺の若い方々と学生諸君とにより、それぞれの思いをもって運動が受け継がれ、街づくりが皆さん身をもって生活の一環として進められてきているといっても言い過ぎではない。

今後については、街単独での取り組みもさることながら、他地域(北国街道、大岩街道)とのつながりも欲しいところである。具体的には、街道で各宿場街(や拠点)を結び、生活連絡連結ラインとしての街道と生活領域としての街をセットにして広がりのある活動を進めたいものである。末筆になりましたが、滑川宿関連の関係各位には有形無形にお世話になり、ここに謝意を表します。

**A. 参考** 毎年定例企画：ひな祭り、端午の節句、ベトナムランタン祭り 7000人、地域の神社の祭り、アート展

特別企画：ドラゴンアッシュ演奏会 250人、バンドネオンとベースの演奏会 60人、

酒蔵アート地元作家 16人により 1200人、芋煮会(山形大学生有志主催)700人、

学生による街ウォッチング(女子の大学生 4-5人\*3大学)